

第 30 回クラシックを楽しむ会

2016 年 3 月 20 日 (日) 18:00～ (3 時間 33 分、休憩除く)

歌劇「ドン・カルロ」(ヴェルディ)

会場等：メトロポリタン歌劇場 1983 年 3 月 26 日
イタリア語 5 幕版 (モデナ版) を 3 幕で上演

管弦楽：メトロポリタン歌劇場管弦楽団

合唱：メトロポリタン歌劇場合唱団

指揮：ジェムズ・レヴァイン

演出：ジョン・デクスター

衣装：レイ・ディフェン

出演：ニコライ・ギャウロフ (バス) 国王フィリップ 2 世
プラシド・ドミンゴ (テノール) 王子ドン・カルロ
ルイス・キリコ (バリトン) 親友ロドリゴ侯爵
フェルッチョ・フルラネット (バス) 大審問官
ミレッラ・フレニ (ソプラノ) 王妃エリザベッタ
グレース・バンブリー (メゾソプラノ) 女官エボリ公女
その他



異端判決宣告式の場面、ドン・カルロが剣を抜く



ギャウロフ
(国王フィリップ 2 世)



ドミンゴ
(王子ドン・カルロ)



キリコ
(親友ロドリゴ)



フルラネット
(大審問官)



フレニ
(王妃エリザベッタ)



バンブリー
(女官エボリ公女)

ものがたり

16 世紀のスペインを舞台に、国王フィリップ 2 世と若き王妃エリザベッタ、まだ王妃を愛している王子ドン・カルロと親友ロドリゴ侯爵、王子を愛する女官エボリ公女たちの愛の葛藤を、カトリック王国によるフランドル圧政とプロテスタント教徒弾圧を背景に、父と子、友情、愛と嫉妬、政治・宗教的な対立などを最も高貴で感動を与える壮大なドラマにした傑作悲劇。

第 31 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：歌劇「椿姫」(ヴェルディ)

4 月 24 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

2014 年のグラインドボーン音楽祭 80 周年記念プレミエ公演。ヴィオレッタ役ヴェネラ・ギマディエワは期待の若手プリマドンナ。永遠の名作をトム・ケアンズのオーソドックスな演出とマーク・エルダーの手堅い指揮で安心して楽しめます。

5 月以降、「ドン・ジョバンニ」、「トゥーランドット」など新演出の名作の他、珍しい貴重な演目も予定。これまで上映した演目の再演も予定。

あらすじ

(登場人物の名前、地名はイタリア語版)

【時と場所など】

1568年頃のスペイン（第1幕第1場はフランス）

【登場人物】

国王フィリッポ2世	スペイン国王、王子ドン・カルロの父
王子ドン・カルロ	王妃となったエリザベッタをまだ愛し苦しんでいる
親友ロドリーゴ	ポーサ侯爵。王子ドン・カルロの親友で人徳篤く国際情勢にも明るい
王妃エリザベッタ	スペイン国王の王妃になったフランスの王女。王子ドン・カルロの元婚約者
エボリ公女	王妃に仕える女官
大審問官	90歳で盲目のカトリック教会の権力者。プロテスタント教徒を弾圧

【第1幕】(モデナ版の第1幕と第2幕)

第1場:パリ郊外フォンテンブローの森(フランス王家冬の離宮がある)、日暮れ

カルロは森の木陰からフランス王女エリザベッタを初めて見つめ、婚約者の美しさに「フォンテンブロー、寂しい森よ」を歌う。その夜、出会った二人は幸福に酔い愛を誓う。その直後に王女がスペイン王妃に決定したと告げられ、二人は絶望し残酷な運命を嘆く。

第2場:サンジュスト修道院の回廊

カルロは祖父の皇帝カルロ5世の墓前で、再会した親友ロドリーゴに苦悩を告白。ロドリーゴは驚くが、圧政に苦しむフランドルを救うため協力を求め、友情を誓う二重唱「**我らの胸に友情を**」を歌う。

第3場:サンジュスト修道院入口の庭

女官エボリ公女は王妃の礼拝を待っている間、古いサラセンの歌「**ヴェールの歌**」を歌う。ロドリーゴは出てきた王妃にパリの母からの手紙と一緒にカルロの手紙を渡す。エボリ公女は二人の会話からカルロが自分への愛に悩んでいると誤解する。ロドリーゴが国王のフランドル圧政を非難するが、国王はロドリーゴにカルロと王妃の仲を探るよう頼む。

【第2幕】(モデナ版の第3幕)

第1場:王妃の庭園、月夜

自分の美貌に自信を持つエボリ公女はカルロが王妃を愛していることを知って嫉妬、復讐を誓う。

第2場:アトーチヤ聖母マリア教会前の広場

異端者の火刑を見ようと広場に集まった群衆が「**ここに輝かしい日が始まって**」を歌う。カルロとフランドルの使者が慈悲を求めるが国王は拒絶。カルロがフランドル救済を誓って剣を抜いたため、ロドリーゴが剣を取り上げる。

【第3幕】(モデナ版の第4幕と第5幕)

第1場:王宮内の国王の居室、夜明け前

王妃に愛されず息子に裏切られた国王は「**彼女は私を愛したことがない～一人寂しく眠ろう**」と悲しみと苦悩を歌う。盲目の老審問官が登場し国王にカルロと首謀者ロドリーゴの死刑を求める。王妃が現れ、国王は王妃とカルロの不義の証拠を示して王妃を罵倒。エボリ公女は自分の策略を後悔し、王妃に国王と自分の関係を告白する。良心の呵責と自分の美貌を呪って「**むごい運命よ**」を歌い、カルロ救出を誓う。

第2場:地下牢

ロドリーゴは「**私の最後の日**」を歌ってカルロに別れを告げるが、大審問官の部下に暗殺される。

第3場:夜のサンジュスト修道院の回廊

過去を回想し今の運命を嘆く王妃が「**世のむなしさを知る神よ**」を歌う。ロドリーゴの遺志を果たすためフランドルへ発つカルロと王妃は永遠の愛を誓う。国王と大審問官が現れて二人を捕えようとするが、皇帝カルロ5世の亡霊が現れカルロと共に姿を消す。一同驚きと恐怖で立ちすくむ。

注. サン・ジュスト修道院は、実際にはマドリードの西約200kmの寒村にあるユステ修道院と付属教会のことである。

アトーチヤ聖母マリア教会はマドリードの現在の王宮・アルムデナ大聖堂から南東約1km、アトーチヤ駅そばにある。

オペラと原作について

このオペラはフランス語版全5幕の「**ドン・カルロス**」として1867年パリ・オペラ座で初演。その後約20年間にたびたび改定したため、イタリア語版を含む色々な版がある。5幕版の第1幕はフォンテンブローの森の場面であるが、4幕版ではこの場面をカットしている。

原作は18世紀ドイツの文豪シラーのドイツ語戯曲「**スペインの王子ドン・カルロス**」。シラーの原作には上記フォンテンブローの森の場面や異端審問の場面などがなく、最近の研究でこれらの場面は19世紀フランスの劇作家・台本作家コルモンの芝居「**スペイン王フィリップ2世〜シラーを真似た5幕の戯曲〜**」に基づくことが分かった。なお、オペラの重要な登場人物ポーサ侯爵ロドリゴはシラーの創作人物である。



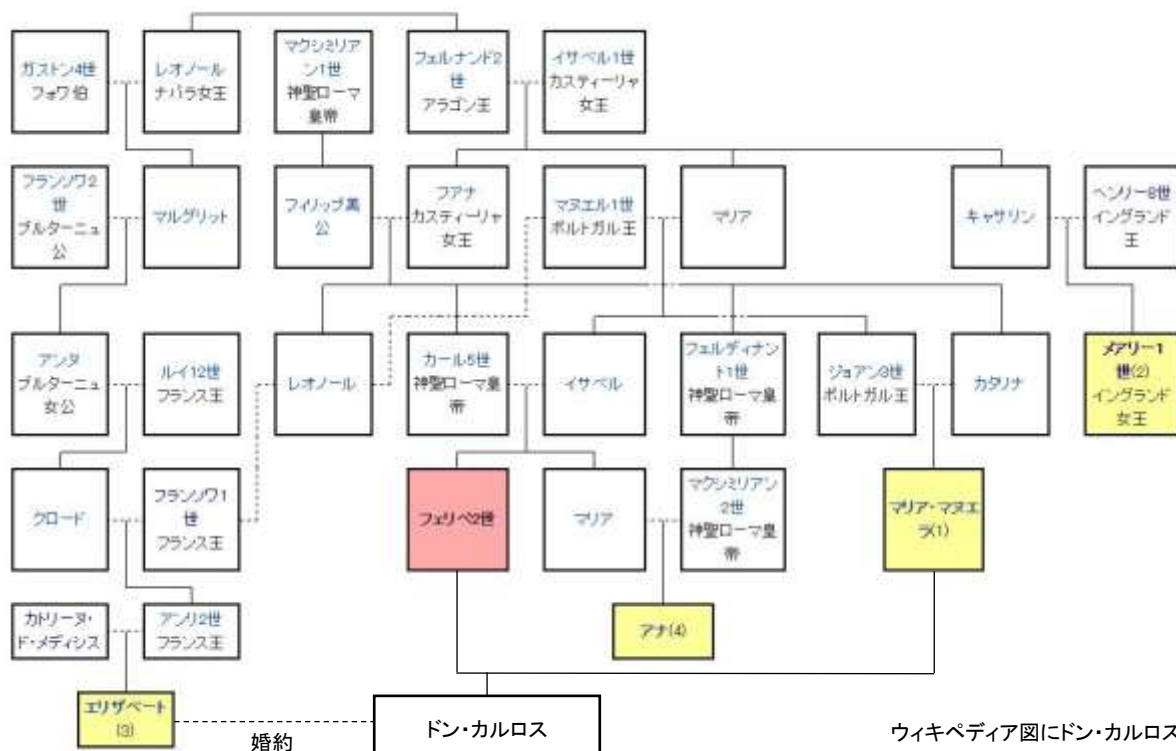
シラー

オペラの時代背景

このオペラはスペイン・ハプスブルク帝国の国王フェリペ2世時代の史実を元にした歴史ドラマである。皇帝カール5世とその息子フェリペ2世が活躍した16世紀はスペインが輝いた黄金の世紀。広大な領土のどこかが常に太陽に照らされていることから「**太陽の沈まない国**」と形容された。フェリペ2世の息子ドン・カルロス没後3年、1571年にはレパントの戦いでオスマン帝国海軍を破ったが、1588年にはスペイン無敵艦隊がイギリスに敗れて帝国の栄光に陰りがでてきた。

- ・皇帝カール5世の母方先々代は**カトリック両王**のイサベル女王とフェルナンド王。両王治世の1492年はグラナダ陥落でレコンキスタを終結させ、コロンブスに新大陸を発見させ、**スペイン異端審問**を開始した年。
- ・皇帝カール5世の時代にルターによる**宗教改革**が始まる。フェリペ2世はカトリックによる国家統合を理想としプロテスタントを否定。経済的に繁栄していた**フランドル地方**のプロテスタント勢力は、圧政・弾圧に対して1568年に反乱を起こし、その後80年におよぶ戦争の結果オランダ独立を果たす。
- ・フェリペ2世は即位と同時に莫大な借金も受け継ぎ、在位中は常に破産状態で4回の**バンカロータ**（破産宣告、国庫支払い停止宣言）を行った。度重なる戦のためにドイツのフッガー家、ジェノバの銀行から莫大な借金を重ねたため、新大陸などから略奪した膨大な金銀も借金返済に消え、父から受け継いだ負債を5倍にして息子フェリペ3世に残した。
- ・スペイン・ハプスブルク家は人間の**近親交配**の代表例として有名。一族の乳児死亡率は当時のスペイン国内村落の平均より高く、フェリペ2世のひ孫カルロス2世でスペイン・ハプスブルク家は断絶！

フェリペ2世と4人の妃との血縁関係



ウィキペディア図にドン・カルロスを加筆

モデルは実在した

カール 5 世(オペラではドン・カルロの亡き祖父 皇帝カルロ 5 世)

スペイン国王カルロス 1 世、神聖ローマ皇帝カール 5 世。王子ドン・カルロスの祖父で 1500 年生まれ。4 人の祖父母から各王国と広大な植民地を受け継ぎ、約 200 年続いたスペイン・ハプスブルク帝国の祖。彼の強力なライバル、フランス王フランソワ 1 世※1 とイングランド王ヘンリー 8 世※2 とは近親の姻戚関係。

※1. フランソワ 1 世は最初のルネッサンス君主。ヴィクトル・ユゴーの戯曲「王は愉しむ」と、それをオペラ化したヴェルディの「リゴレット」で有名。

※2. ヘンリー 8 世は 6 度結婚、その離婚問題でローマ・カトリック教会と決別しイングランド国教会（聖公会）を設立。シェクスピアの歴史劇「ヘンリー 8 世」で有名。

フェリペ 2 世(オペラではドン・カルロの父フィリッポ 2 世)

スペイン国王。王子ドン・カルロスの父で 1527 年生まれ。フェリペは生涯に 4 度結婚した。最初の妃は同い年の父方も母方も従兄弟関係のポルトガル王女マリア・マヌエラ※。16 歳で王子ドン・カルロスを生み 4 日後に死亡。2 度目の妃、11 歳年上の従兄弟半、ヘンリー 8 世の娘のイングランド女王メアリー 1 世は病死。3 度目の妃は息子ドン・カルロスの婚約者フランス王アンリ 2 世の長女エリザベートでドン・カルロスの牢死から 3 か月後に死亡。後継ぎも王妃も失って独身に。4 度目の妃はオーストリア・ハプスブルク家の姪アナ・デ・アウストリア（彼女もドン・カルロスの従兄弟で妃候補だった！）。アナとの間にフェリペ 3 世が生まれ、3 代の後にスペイン・ハプスブルク家は途絶。

※マリア・マヌエラの父ポルトガル王ジョアン 3 世はフランシスコ・ザビエルを日本に派遣して 1549 年にキリスト教を伝道。フェリペ 2 世は 1584 年に天正遣欧少年使節を歓待。フェリペ 3 世は慶長遣欧使節支倉常長と面会。なお、2014 年即位の現国王フェリペ 6 世はスペイン・ボルボン（ブルボン）朝の王。

ドン・カルロス(オペラではドン・カルロ)

父フェリペの初めての男の子ドン・カルロスは 1545 年生まれ。母は誕生直後に死亡し父は多忙で不在。寂しく不安と孤独の中で成長。4 人の祖父母は互いに兄妹で両親の曾祖母は同じ”狂女王ファナ”。生まれながら肉体、精神とも異常で幼稚。スペインの唯一の王子として王位継承者になったが、世界帝国を支配する能力はなかった。父に反抗し謀反の廉で父に捕えられ 1568 年に 23 歳で獄死。なお、オペラと異なり、一歳年下の王妃イサベルとは親しかったものの恋愛感情はなく、むしろ父の 4 度目の妃になる従兄弟アナとの結婚を夢見ていた。肖像画に注目！祖父、父と同じ顔！?

イサベル・ディ・ヴァロア(オペラではエリザベッタ・ディ・ヴァロア)

フランス王女エリザベート（スペインではイサベル）はフランソワ 1 世の子アンリ 2 世と王妃カトリーヌ・ド・メディシス※の長女としてフォンテーヌブロー城で生まれた。婚約していたイングランド王子が死亡したため、スペイン王子ドン・カルロスと婚約。父アンリ 2 世がイタリア戦争でスペイン王フェリペ 2 世に敗れ、カトー・カンブレジ条約によりフェリペ 2 世と結婚。なお、父アンリ 2 世はその祝宴中の事故で死亡。

※ 母カトリーヌ・ド・メディシスはメディチ家ロレンツォ 2 世の娘で継嗣。フランスにフィレンツェ料理やフォークなどの食器、作法を導入しフランス料理の基礎を作った。

エボリ公女(オペラでもエボリ公女)

スペイン大貴族※の名門メンドーサ家メリト伯爵の跡取り娘アナは莫大な領土・財産を受け継ぎ、フェリペの側近で片腕のポルトガル下級貴族ルイと 13 歳で結婚。ルイは後にエボリ公爵の称号を与えられアナはエボリ公女と呼ばれる。幼い王妃イサベルを支えたスペインで最も美しい女性として有名。シンボルマークの眼帯には諸説ある。フェリペや主要な廷臣達とのスキャンダルが伝わる。後に権力欲のため墓穴を掘って亡くなるが、ひ孫の子（やしゃご）二人はいずれもポルトガル王になる。

※ スペイン大貴族は一般の公爵などとは別格で王家に次ぐ地位と権力を持っていた。



カール 5 世



フェリペ 2 世



ドン・カルロス



イサベル



エボリ公女